

立春を過ぎたものの、8日と14日には立て続けに積雪を記録するなど、厳しい寒さが続いています。小学生にとっては、今回のように雪が積もったのは初めての経験だったのではないかと思います。雪だるまを作ったり雪合戦をしたりして雪遊びを大いに楽しんだことでしょう。現在、ロシアのソチでは冬季オリンピックが行われていますが、テレビの前で一喜一憂している方も多いのではないかと思います。日本人選手の活躍を期待するのはもちろんですが、出場選手はみんな、自国の代表として計り知れないプレッシャーを受けながら、メダル獲得をめざして全力を尽くしています。結果如何に関わらず、その姿に感動と勇気をもたらしている人が多いのではないかと思います。

これから、三寒四温を繰り返しながら一步一步春へと向かっていくことと思います。今年度のゴールも見えてきました。学年末に向けて、見通しをしっかりとって一年間のまとめをしていきたいと思っています。

クラス一丸 新たな記録に挑戦！ 全校長縄記録会



【全校児童が一丸に集い縄を伸ばした記録会】

クラス全員が心をひとつにして、跳ぶ回数を競い合う恒例の長縄記録会。第8回の今年から、新基準（5分間跳んだ合計回数から、3分間の合計回数へ）に変更したため、これまでの記録はリセットされました。各学年とも今回の記録が各学年の新記録ということになります。記録会は二週間にわたって3回実施します。どの学年も休憩時間や体育の時間を使って熱心に練習を繰り返し、記録会に挑んでいます。2回目の記録会を終えた段階で、4年生が、314回でトップをキープしています。初代栄冠に輝くのは果たしてどの学年か？3回目の記録会が楽しみです。教師と児童、児童と児童が、互いに励まし合い助け合いながら、跳び方や回し方等様々な工夫を重ねて、練習に取り組んでいます。こうした練習を通して、一体感や連帯感が生まれ、クラスの結束力、きずなが強くなってきているのではないかと思います。また、個人的にも体力や集中力が高まり、3回目の記録会が終わったときには、成就感を味わうことでしょう。これから、さらに大きくジャンプすることを期待しています。

フレンドパーク

学期に一度実施している、児童がとても楽しみにしている活動です。3年生から6年生がそれぞれ出し物を考えて企画し、全校児童が参加して楽しむ活動です。準備は大変だったと思いますが、自分たちの企画した遊びに全校児童が参加し、楽しんでもらえることに喜びを感じている様子を見て、有意義な活動であることを実感しました。どの遊びもみんな笑顔で笑い声が校内にこだましていました。但し、お化け屋敷を除いては！お化け屋敷は、いつも大変な人気で、行列をつくって入場を待っています。恐怖の館に入る前は、「全然怖くない」と粋がっていた1年生の中には、恐怖の館に一步足を踏み入れた瞬間に出てきた児童や、真っ暗闇の中で繰り広げられる恐怖の仕掛けに耐えられず、大泣きをしながら出て来た児童もいました。怖いのなら見なければと思うのは、浅はかな大人の考えでしょうか？怖いけど見たいというのが人間の深層心理なのかもしれませんね。



【フリースロー&ストラックアウト：5年】



【輪投げ：3年】



【魚つり：4年】



【行列待ちのお化け屋敷：6年】【変装：客寄せ？】



※ 実際は暗闇の中で顔だけが懐中電灯で照らされています。
【暗闇に突然現れた妖怪】

租税教室 6年 税について学ぶ

税の学習は、6年生が社会科の学習の一環として実施しています。税に関するDVD視聴や講師の説明を通して、税金の種類や使い道、税金の流れ等を理解するとともに、税への関心をもつことができたのではないかと思います。特に、消費税については税率が4月より変わるため、例年よりも関心の高い児童が多かったようです。また、一億円（見本）の入ったジュラルミンのアクセサリーケースから札束を取り出して、直接手にとって一千万円の厚さや重さ等、量感を味わうことができました。



「海のゆいかご」アマモを見崎の海へ 2月1日（土）



【定植をする小学生と生長したアマモ】

午前6時、「神島・寺間・見崎里浜づくり」のメンバーを中心に環境問題に取り組む子どもから大人まで約40人が、見崎の集会所に集結しました。里浜づくり代表の森中氏から説明を聞いた後、真っ暗な中を懐中電灯で足下を照らしながら、大潮で遠浅になった見崎海岸に移動しました。植え方の指導を受けた後、5年生が3ヶ月かけて種から育てたアマモの苗をポットから優しく取り出し、海底に丁寧に植えていきました。定植を終えた頃にはうっすらと辺りが白けてきていました。今回植えた周辺に、これまでに定植したアマモが順調に生長して、藻場が広がっているのを確認することができ、ほっとしました。小さな一步の積み重ねが、豊かな海の再生へとつながっていくことと思います。環境問題に取り組む人々の輪が、これからも神島から広がっていくことを願っています。



【森中代表の説明を聞く参加者】